

平成 28 年 2 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム 平成 28 年度第 2 回

### 経営理念・経営哲学は人を動かす

皆さんの前に立つ前に、ネクタイは曲がっていないか、ズボンの前が開いていないか等を確認して参りました。だんだん年をとるにしたがって、かつて考えられなかった失態が出て来るものです。以前、友人・知人の棚卸しをしましよと申しました。一年の締めくくり、或いは 10 年一区切りで考えてみて、自分の友人、自分の身の回りのものを棚卸しする必要があるとお話しましたが、自分自身の癖や生活習慣も棚卸した方が良いなと感じます。

先程、猪瀬理事長が経営理念・経営哲学をもっていると良いという話をされました。中斎塾の基本理念を読み上げておられ、改めてそうだったなと思い出しました。

私は 28 歳でシムックスを創りました。資本金 100 万円で社員はゼロでした。それから 2 年ほど経った頃、中小企業金融公庫が警備会社にお金を貸すことになったという新聞記事が出ました。中小企業金融公庫は前橋に支店がありましたので、早速電話をして、借り入れの申込みをしました。政府系の金融機関が警備会社に融資をしたのは、全国で第一号でした。

先日、シムックスの 25 周年誌を読み返してみました。当時の中小企業金融公庫の担当だった方が思い出を寄せてくれた文章には、「この社長は本物だという感じがしました。それで支店長にすぐ会って戴きました」とありました。普通は、紹介者がいない会社には貸さないそうです。ところが私は紹介者も無しで、年商を超えたお金を借りたいと飛び込んできたわけですから、当時の支店長が「アクセルはあるが、ブレーキもハンドルもない、暴走車みたいな若い社長が飛び込んできた…」と思ったという話も聞けます。

アクセルだけでブレーキもハンドルも無いと言われた理由は、当時、私は決算書が読めませんでした。貸借対照表・損益計算書などは、専門家がやれば良いと思っていました。ですから借金がいくらあるかも知りませんでした。年商 4 千万の会社が、年商を上回る借金を申し込んだわけですが、貸してくれました。それを資金に土地を買って本社屋を建て、武道場と教育研修寮を作りました。

後から考えると、お金を貸してくれた金融機関の方々、保証協会の担当者であったり、中小公庫の支店長や担当者であったり、太田の商工会議所の担当者、東和銀行の窓口の方や支店長等々、どういう訳か皆さん応援して下さいの側に回って下さいました。なぜ皆さんが応援して下さいなのか、中小公庫の担当だった方の寄稿に理由が書いてありました。経営理念を滔々と語る社長のキラキラ光る眼を見たら、夢を感じて応援したくなったということです。ですから経営哲学・経営理念は人を動かすのだと、今、改めて思います。

経営理念・経営哲学を持っていると、会社を立ち上げた時、それが大いに役に立ちますし、会社を引退した後も大いに役に立ちます。同時に、個人個人の＜人生どう向き合うか＞という命題にも大いに役に立ちます。

経営理念・経営哲学のもとになるものは人生哲学です。人生哲学とは、＜われ如何に生きべきか＞を考えることですから、それほど難しいことではありません。自分は何のためにこの世に生まれたのだろう、何をしに生まれたのだろう、次の世代に何をバトンタッチしよう、子供・孫をどうやって育てよう・・・ということを考えるのが人生哲学です。

28歳で会社を創業し、30年経って58歳で社長業をバトンタッチし、それから10年経って引退を致しました。引退をしたら多少は力が抜けるかと思いましたが、やりたい事が沢山湧いて出ましたので、どんどんやり始めました。一つは事業承継研究会を立ち上げました。それから松下幸之助の書いた『経営のコツこころと気づいた価値は百万両』という本に啓発され、経営指導研修会をつくりました。それと経理に関する研修会をつくりました。

更に、中斎塾フォーラムの活動の場をもう少し広げようと思い、福島県でフォーラムを立ち上げようと思っています。福島には渡邊五郎三郎先生が創られた福島新樹会という勉強会がありました。渡邊先生が引退されたあと、福島新樹会は解散してしまっているので、元のメンバーの方々にも中斎塾フォーラムに参加して戴きたいと思っています。

## 紹介書籍

中斎塾フォーラムで学んでいると、自然と総合的直観力が身に付きます。それから陽明学がベースですから、行動を重視するようになります。行動の中から良い智恵が浮かんで来ます。行動の中から自分を磨くことは、陽明学の言葉で「事上磨錬」と言います。日常生活の中で我と我が身を磨きましょうということです。磨くものは沢山ありますから、自分で選んで戴くとよろしい。そうすると自分にあった磨き方が自然と見えて来ます。なぜなら、判断の三原則（本質・大局・歴史）が身に付いて来ると難しいことではないからで

す。このフォーラムの中で、「事上磨錬」「総合的直観力」「判断の三原則」「嘘をつくな」・・・こういう言葉が飛び交っていると、自然と身体に沁みこんで来ますので、どうぞ沁み込ませて下さい。

今日お話させて戴くベースになる本をご紹介します。何度かご紹介している木内信胤先生の『國の個性』（プレジデント社）です。30年くらい前に書かれた本ですが、この中には、アメリカがこれからもの凄い勢いで転落する、何故そのように転落するか、何故この本を世に出したいと思ったか・・・等々が書かれています。

もう一冊は、『カンの構造』（中山正和著 中公新書）です。総合的直観力とは、カンです。日本民族は他の民族と比べて、カンが鋭く発達している。それは何故かということをも唯識学の観点で心を研究し、その上で技術者としての目でカンというものを考えた本です。

更に、2月7日に参加した北方領土返還要求全国大会で戴いた冊子も回覧致します。私は日本J Cで北方領土返還運動に関わったのがきっかけで、毎年この大会に参加しています。その目的は、日本の国の首相が世界に向かって発信する言葉、雰囲気をも身体で味わいたいからです。それから各政党の代表も参加をするので、その状況を見るため。そしてセキュリティがどうなっているかを見るためです。

今年の大会は、結論から申しますと、何とも情けないという印象を持ちました。安倍さんは迫力がない。手を抜いて喋っている感じがしましたし、話し終るとさっさと帰ってしまいました。また、自民党以外の政党は党首ではなく代理が出席していて、いかにも押し付けられたという感じでした。セキュリティに関しては形だけ強化されていましたが、安倍さんのボディガードは緩んだ印象でした。天皇陛下の場合は厳戒態勢をとりますが、総理大臣は代わりがいると考えていると私には感じられました。これだけ世界でテロが広がっているのですから、もっとピリピリしてよいはずですが、イスラム過激集団が日本をテロの標的に名指ししていますが、私は日本でもテロが起きると思います。こんなに緩んでいる国はありませんから。

### 恒例の質問

では、恒例の質問を致します。今年に入って1ヶ月半経ちましたので、その間でお考えください。

○ 良い日が比較的続いていると思う方

悪い日が続くと思っていると、悪い日と呼んでいるようなものですから、出来るだけ良い日が続けられると良いと思って下さい。良い日が続くための方法は、良い事と悪い事を天秤にかけるのではなく、一日のうちで何か良いなと思うことがあったら、夜寝る時にそ

れを思い出して、良い日だったと思って寝るとよろしいでしょう。

○ 嘘をつかない日が比較的多かった方

○ 有難う言い、有難うと言われることが多かった方

有難うと言うより、有難うと言われる方が大変です。歳を重ねれば重ねるほど、有難うと言われることが少なくなりますので、意識して人さまに何かしてあげるとよろしいでしょう。

○ 健康法を続けている方

今日は、私の柔道の先生が参加しておられます。週に一度、朝稽古で組みあうのですが、ちょうどよくお互いに力の出し合いが出来ます。私は来年70歳になりますので、今年一年間は70代の準備としてパワーアップをしようと思っています。今は腕力と太もものパワーアップに取り組んでいます。先日、人間ドックで体力測定をしたのですが、昨年よりすべての数値がアップしていました。

健康法は何でも結構です。手を挙げられなかった方は、是非実践して下さい。

○ 昨晚寝る時に、明日を過去形でイメージ出来た方

これが自由自在にイメージ出来る方は大金持ちになるといいます。今、手を挙げた方は小金持ちにはなると思います。

### 世界は今、危機に瀕している

中齋塾フォーラムの基本哲学は知足です。足るを知るという考え方がベースです。足るを知るという考え方は、日本人独特のものだと思っています。外国人の足るを知るという考え方は、日本人とは少し意味が違うと感じています。日本民族の感性は、外国の人と比べてかなり異質だと思っています。

アメリカ型のグローバリズムが世界中に広がっている中で、今、それが行き詰っています。先程、理事長が言われた中齋塾フォーラムの理念にもあるように、世界は今、危機に瀕しているけれども、それが分からない。尚且つ、メディアも伝えようとしない。知らそうとしないし、知ろうともしない。知らされないのが普通であるという現状です。あまりにも世界の流れ・常識が日本国内に伝わってこないのだなあと感じています。

足るを知るという考え方は、日本を良い国に導いていく大きなキーワードです。日本国民の多くが足るを知る状況になったなら、世界が日本を見習うことになると思っています。

### 論語の視点

論語を読む時は、現代に置き換えてみる、自分自身に置き換えてみる、自分自身の仕事

に置き換えてみる。そういう読み方をして下さい。

【二〇】子<sup>し</sup>衛<sup>えい</sup>の靈<sup>れい</sup>公<sup>こう</sup>の無<sup>む</sup>道<sup>どう</sup>を言<sup>い</sup>う。康<sup>こう</sup>子<sup>し</sup> 曰<sup>いわ</sup>く、夫<sup>そ</sup>れ是<sup>かく</sup>の如<sup>ごと</sup>くならば、奚<sup>なん</sup>ぞ喪<sup>うしな</sup>わざると。  
孔子<sup>こうし</sup>曰<sup>いわ</sup>く、仲<sup>ちゆう</sup>叔<sup>しゆく</sup>圉<sup>ぎよ</sup> 賓<sup>ひん</sup>客<sup>かく</sup>を治<sup>おさ</sup>め、祝<sup>しゆく</sup>鮪<sup>だ</sup> 宗<sup>そう</sup>廟<sup>びやう</sup>を治<sup>おさ</sup>め、王<sup>おう</sup>孫<sup>そん</sup>賈<sup>か</sup> 軍<sup>ぐん</sup>旅<sup>りよ</sup>を治<sup>おさ</sup>む。其<sup>そ</sup>れ是<sup>かく</sup>の如<sup>ごと</sup>し。  
奚<sup>なん</sup>ぞ其<sup>そ</sup>れ喪<sup>うしな</sup>わんと。

孔子が季康子に、衛の靈公の無道ぶりを言いました。

衛の靈公は二番目の奥さんの南子を溺愛しました。南子は淫行の噂が絶えない女性でした。靈公は南子に溺れて、先妻の子供である太子の蒯聩（かいかい）を廢嫡しようとしたので、蒯聩は南子を殺そうと企てますが、失敗して追放されてしまいます。こういう靈公の行いを、孔子は無道（人間としての道に劣る）だと言っているわけです。

季康子が「そうであれば何故、追放されないのですか」と聞きました。

孔子が答えました。「仲叔圉は外交面で非常に長けている。祝鮪は祭祀のことに長けている。王孫賈は軍備に長けている。そのように優秀な人材を用いたので靈公が追放されることはなかったのだ。」と。

会社で言えば、社長が少しぐらい阿呆でも、素晴らしい部下が沢山いれば会社は安泰だということです。しかし現実には、そう上手くいかないと感じます。徳川家康は「君、君たらずとも、臣は臣たれ」（将軍が阿呆でも家臣は将軍を立てなさい）という考え方を取り入れて江戸幕府という長い平和をもたらしましたから、トップが阿呆でも、部下に任せてしまえばよいという仕組みをきちんと作れば、結構長く続くものだと感じます。

日本の場合、三井・三菱・住友といった商家が長くずっと続きました。日本には長寿企業が多いですが、その理由の一つは、いわゆる創業家は君臨するけれども、実際に運営管理をするのは番頭さんという仕組みを作ったからです。

論語はまず、素直にすらっと読めること。次の段階は、その状況が目浮かぶように、スクリーンで描けるようになること。更に次の段階は、自分自身のこと置き換えて読むことが出来れば素晴らしいでしょう。例えば経営者であれば、もし私が呆けてきたらどうするかを考えて、それには良い仕組みを作っておかねばならない、とこの部分をお読みになるとよろしいでしょう。

【二一】子曰く、其<sup>し</sup>之<sup>これ</sup>を言<sup>い</sup>うこと作<sup>は</sup>じざれば、則<sup>すなわ</sup>ち之<sup>これ</sup>を為<sup>な</sup>すや難<sup>かた</sup>し。

孔子が言うには、体言壮語をして恥じないような人は、その言葉を実行することは難しい。

格好をつけて大風呂敷を広げてしまうことは、誰しも多少経験があると思います。自分の力量を超えていても、頑張ろうと努力できればよいのですが、自分自身を振り返ることなく大言壮語を言ってはいけないということです。

例えば営業の仕事で、お客さんの要望が物理的な面や金銭的な面で無理だという場合でも、期待に応じて「出来ます」と言ってしまった。自分の心の中で、本当に大丈夫かなと思う気持ちがどこかにあれば、努力する部分が出て来ます。しかし、そんなの大丈夫だと慢心していると、やり遂げることは出来ません。

出来もしない事を大言壮語してはいけない・・・自分の仕事を考えながらこの部分を読まれると良いでしょう。

くれぐれも論語を読む時は自分自身に置き換えて、又は今の日本の国がらにあわせて置き換えるとよろしいでしょう。先日、参議院議員を辞職した宮崎議員はそのまま当てはまりますね。育児休暇をとって一所懸命育児をします、などと言わなければよかったと思います。週刊誌に追いかけて逃げ回ってしまったから、記者会見で釈明しなければならなくなったわけです。すぐに議員を辞めましたから、まあまあ人間としては再起できるだろうと思います。大言壮語でなくても、やはり嘘をつくとしっぺ返しが来るものです。

【二二】<sup>ちんせいし</sup>陳成子<sup>かんこう</sup>簡公を弑す。孔子<sup>し</sup>沐浴して朝<sup>し</sup>、<sup>あいこう</sup>哀公に告げて曰く、<sup>ちんこう</sup>陳恒<sup>そ</sup>其の君を弑せり。請<sup>う</sup>之<sup>を</sup>討<sup>げん</sup>と。公曰く、夫<sup>の</sup>三子<sup>に</sup>告<sup>げ</sup>よと。孔子曰く、吾<sup>の</sup>大夫<sup>の</sup>後に従<sup>う</sup>を以て、敢<sup>て</sup>告<sup>げ</sup>ずんばあらざるなり。君<sup>の</sup>夫<sup>の</sup>三子<sup>者</sup>に告<sup>げ</sup>よと曰<sup>えり</sup>と。三子<sup>に</sup>之<sup>き</sup>きて告<sup>ぐ</sup>。可<sup>か</sup>ず。孔子曰く、吾<sup>の</sup>大夫<sup>の</sup>後に従<sup>う</sup>を以て、敢<sup>て</sup>告<sup>げ</sup>ずんばあらざるなりと。

魯の隣国である齊の大夫の陳成子が、君主の簡公を殺しました。

孔子は沐浴し身を清めて朝廷に出て、哀公に「陳恒が君主を殺したのは、大義名分からして討伐せねばならないでしょう」と告げました。

孔子はこの時72歳という高齢で隠居をしていたのですが、言わなければならない事は言わなければならないと、君主である哀公に進言したわけです。

哀公が答えました。「私はもう実力が無い。力のある臣下の三家（孟孫・季孫・叔孫）に言って取り計らって貰えばよい。」

孔子は仕方なく下がって、「私は大夫の末席にいるので、敢えてお伝えしたのだ。しかし

君は「三子に告げよ」と命じた。私は三家へ行ってそれぞれに告げたけれども（皆、哀公を倒して自分が君主になろうと思っているから）聞き入れてもらえなかった」と言いました。

そして「私は大夫の末席にいる者として、申し上げずにいられなかったのだ」とため息をつきました。

家臣が主君に取って代わるという部分を今の時代で考えてみると、大塚家具のお家騒動が浮かびます。先日、電車に乗りましたら「新生 大塚家具」という広告が沢山貼ってありました。大塚家具が新しくどう変わったかということより、親子喧嘩した会社というイメージしか湧きませんでした。親の立場でみれば、娘の育て方を間違ったと思うでしょうし、娘の立場で見れば、引退したのだから口出ししないでくれということでしょう。お互いの言い分がチラシから透けて見えたので、大塚家具については新しく発足した事業承継研究会で面白い事例研究材料になると感じました。

また、孔子のこの問答を今の政治家に置き換えて、誰が簡公か、誰が陳成子か、哀公は誰か、三子は誰か・・・と並べて考えてみるのも面白いでしょう。

### 木内信胤先生の総合的直観力

今年は木内信胤先生のことを色々な形で出しています。前回は総合的直観力に付いてお話ししました。本日は、木内信胤先生が30年前の1986年に書かれた『アメリカ経済一危機の本質』をテーマにしています。

木内先生は人類を考える時に、5000年単位で考えると言っておられました。一幕目の2500年は、人間が人間らしくなってきた時期。二幕目の2500年は、孔子・お釈迦様・キリストといった宗教的なものの考え方を持った人たちが生まれ、その考え方を現実のものにしようと努力した時期。そして木内信胤先生が亡くなる頃は三幕目の幕開けで、ちょうどアメリカが転落し始める時期です。

木内先生がアメリカ経済がおかしくなったと考え出すきっかけになったのは、一つには当時アメリカの金利水準が22%だと聞いて、そんなに高い金利で企業がやっていけないはずがない、と思ったことだったそうです。その後、金利は12%まで下がったけれど、それ以下には下がらない。この国はいったい何なのだろうと思って調べ始めると、アメリカのものの考え方は、建国当初はよかったのだけれど、わずか150年くらいで腐ったということが分かった。腐った怪物のようになったまま、いわゆるグローバリズムで世界を席卷しようとしているのだから、これから世界はどんどん悪くなるだろうと木内先生は結論づけて

おられます。

木内先生はこれからの時代、次の 2500 年は否が応でも日本が頼られるようになる。なぜなら、アメリカ・ヨーロッパは理屈でものを考える。理屈と理屈でやりあったなら、人類は行き詰まってしまう。これからの時代は感性でものを考えねばならない。感性で生きている民族は、世界広しといえども日本民族しかない・・・ということ言われました。そして、文化論でいうと日本文化は特殊で、日本語が日本文化の特徴を表している。だから日本語をよく研究しなさいと言われていました。

更に、アメリカの経済が行き詰った理由は、アメリカの経済学がおかしくなったからだ。それは近代西洋文明が終焉を迎えたからだと考えればよい。近代西洋文明が行き詰ったなら、その先に待っているものは、感性を中心とする新しい文明でなければならない。それを生み出す力があるのは、感性で動いていく日本文化であり、必然的に日本が次の文化を担うことになるだろう。だから私は予測学もやろうと思う・・・と言っておられます。

木内先生はこの本を、アメリカという国に良くなって貰いたいと思って書いたと記しています。そして、それぞれの国が、それぞれの国ごとに特徴も特性も理解して個性的に生きるが良い。アメリカ流を押し付けるのでない。アメリカはアメリカだけで良くなる。日本は日本だけで良くなる。そういう風に、それぞれの国で良くなっていくという文明が世界を救ってゆくだろう。私はこの考えを世の中に知らしめる使命を持ったので、この本を書いた・・・とも言われています。木内信胤先生はこういうことを 30 年前に考えて、現実に実行しておられます。

国家が減びる時は、皆共通の出来事が起きます。私は数年前、実際に経済破綻を起こした国を回って来ました。ブラジル・アルゼンチン・トルコ・ロシア等々の国を回ってみて感じたのは、賄賂・汚職が蔓延っていました。賄賂・汚職が蔓延った国は減びる。今の中国を見て下さい。我々が見ているお金の動きとは全然違います。何兆円という単位で賄賂をとって、それを他の国に送金して隠すわけですから、お金の感覚が違いますね。

今の日本で考えると、税金です。イギリスが覇権国家から転落した時は、90%の税金をかけました。日本の場合も終戦直後、最高税率 90%の富裕税をとりました。その最高税率は数か月で導入を決めて実行されたのですが、その時の経緯が、木内信胤先生の日経新聞のコラム「私の履歴書」に書いてありました。当時の大蔵大臣だった渋澤敬三さんが中心でした。福田赳夫さんや池田勇人さんら数名が密室に集まって、外国からの借金を返すために、日本の大金持ちからどれくらい税金をとればよいかを計算して出た数字が 90%だったそうです。木内先生は終戦直後、外国為替管理委員会という各省庁の上に設けられた組



織の委員長をされました。ですから日本の終戦直後の金融情勢を超法規的な措置で司った人物でもあります。

その木内信胤先生から教えて戴いたものを、私はこの中斎塾フォーラムで、具体的な事例として出すことが出来ます。先生が言われたことを幾つか申します。

○中国は頭が共産主義で身体が資本主義。こんなけったいな国家があるものか。ねじれ現象を起こしている国家が、国家として機能するわけがないから中国は駄目になる。

○近代西洋文明の欠陥。分析はするけれども総合が無い。

○戦後世界の根本的な間違いは、平等である。人間の社会は不平等に出来ている。平等でなければいけないと思うのは駄目。

○物量的な発展には必ず、精神的な価値が伴わねばならない。

○これからの世の中は、宗教的でなければいけない。説明できないが、心の底の方で、どうもそのように思う。よくは分からないが、こうと思い定めて行動する。

○国の借金はゆっくり返せばよい。借金をしてでも、工業化して近代化すると考えなくともよい。

○各国はそれぞれ自分の好きなようにやれば良い。

○外国で採れたものをわざわざ船で運んで食べるのはよくない。その国で採れたものを食べるのがよい。

### **新聞はヒントとして活用する**

新聞の見方、今迄は5分5分で見てくださいと申しました。今年からは、新聞はヒントがある。ヒントの先は自分で考えて下さい。新聞は無意識の内に嘘をつきます。知らせなければならぬことを知らせません。

最近、或る方からお聞きした話があります。3.11の原発事故の後、ドイツの友人から「ドイツの新聞には日本の放射能の汚染状況が毎日更新されているけれど、あなたは今どこにいるの？」と連絡があったそうです。その時、日本の報道は津波で家が流されている様子ばかりで、汚染状況などは全く出ていなかった。その方は、友人が送ってくれたドイツの新聞を見て、とても驚いたと言っていました。現実には、その時の汚染状況が外国にはほとんど流されていたようです。日本人には知らされていませんでした。

或る会合で南相馬市の市長さんの話を伺う機会がありました。3.11の後、市長は新聞社から取材を受ける予定でしたが、突然キャンセルになった。理由は告げられなかったそうですが、南相馬市は危険だから行かないようにという指令が本社から出たからだったとい

うことが分かって、我々は日本という国から見捨てられたのだと思った、という話をしておられました。そういう話を、メディアは伝えません。

今朝の新聞には、「北朝鮮制裁を閣議決定」したとか、衆院定数 10 減 前倒し」とかあった記事があります。我々が新聞を見る時には、ヒントだと思って見る。そして気になる記事があったなら、それに類するものは何だと新聞を見る癖をつけて下さい。どれだけ関連する情報を集められるかです。関連した情報がどんどん入って、自分の頭の中にある程度の情報量が貯まると、爆発して融合を起こします。そうすると新しい視点が開けます。判断の三原則の本質・大局・歴史を見る眼がステップアップします。是非そういう形で新聞をご覧になるとよろしいと申し上げて本日の講話を終了致します。有難うございました。